

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人

小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707

E-mail square@kohitsuji.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人

印刷所：S R S株式会社

定 価：一部 30円

2014年 10月 20日

第 377 号

甘えられる関係性を

支援センターわかき施設長 古橋 誠

福祉現場でも「甘えてる」「甘えないように」という言葉を耳にします。子どもへのしつけや自立にむけて、本人に「がんばろう」「他人に依存しないで自分で立ち向かいますよ」と願いつつ、親や支援者は「甘え」という言葉を「よくないこと」の意味合いで使うことが多いのではないのでしょうか。

広辞苑で「甘える」を引くと、①「馴れ親しんでこびる」②「人の親切・好意を遠慮なく受ける」とあります。前者は「甘ったれ」や「甘えん坊」などの意味に用い、後者は「お言葉に甘えます」などお礼の気持ちを伝える言葉として用いられているようです。支援現場で耳にする「甘え」には、利用者の自立や子どもの育ちを期待し、「依存しない」「他者に迷惑をかけない」「自分の事は自分でやる」といった愛情を含んだ意味で発しているのでしょうか。

よくよく見かける場面を一つご紹介しましょう。新人職員や福祉実習の学生さんが現場に入ると、利用者さんは普段とは違った動きを見せることがあります。例えば、場面移動の際に「立って下さい」との言葉かけに耳を傾けなかつたり、自分で立てるのに抱っこをせがんだり、新人職員や実習生は、自分が声を掛け

たことに反応してくれない、また予測と違った反応にあたふたします。ベテラン職員が通りすがりに「甘えてないで自分で立つてね」と声をかけると、今までの反応とは全く変わり、自分でサッと立ち上がりま

このやり取りを肌で感じた新人や実習生は、先輩職員と利用者の関係性に憧れ、「自分もあんな風に利用者との関係性を作りたい」と思うでしょう。傍から見ると、職員の指示が通り関係性ができていくように見受けられます。もちろん、長年の付き合いから生まれた相互通行による信頼関係が深く関わっています。一方で利用者目線から捉えると、もしかしたら「しょうがない、叱られないようにするか」とか「あの職員の言うことには従わないと...」とも思っているのかもしれない。

心療内科医の明橋大二先生は「甘え」は人間の成長になくはならないものと示しています。甘えとは平たく言うとうと相手の愛情を求めることであり、自己肯定感を育むためには甘えが必要であると述べています。すなわち、甘えが満たされると自分は愛されていると感じ、「自分は大切な人間」「自分は自分ではないんだ」といった気持ち芽生え、自分にも、相手に対しても信頼感が生まれるとい

相互通行の信頼関係には、どの場面においても気づかないうちに「甘え」「甘え

られ」の関係があるものです。職場や夫婦、友人関係でも「ひとつよろしく!」「OK」と本来は自分がすべきことを他者に委ねたり依存したり...

話しを本題に戻します。知的に障がいのある人たちは、感情を上手に表現できなかったり、目標達成に時間を要したり、常に援助を受けることが多く、自己肯定感や信頼関係を築きにくい人がいます。また、中には受容されたことで過度に依存してしまう人もおられ、関わる職員としては対応方法に苦慮することも少なくありません。時には環境を整えて、空間分けをして対処することもありますが、でもそれは、利用者の自己肯定感に繋がりません。安定した関係性を構築するには、人格の受容と「甘え」の許容を礎に、互いに愛をもって接し、同調共感することが必要ではないでしょうか。「甘え」と「甘やかし」は意味合いが違

うので、誤解なさらぬように)。その上で、社会のモラルやルールを学び、目標へのチャレンジに繋がっていくのだと思うのです。□で言うは易しです。表現することの難しい彼らの思いを代弁し、寄り添う支援者として、彼らと豊かな人生をも歩むことは決して容易なことではありません。そこに私たちに求められている専門性があり、この仕事の面白さ、あるいは達成感があるのではないのでしょうか。

第6回小羊学園 ふれあい運動会

笑顔・汗 きらり輝いて！

スポーツ(食欲?)の秋真つ口中、今年も各事業所の利用者が集い、ふれあい運動会が実施されました。各事業所の熱戦と利用者の活躍をご報告します。

みんなで走り切った徒競走

ばびるす 本多 智代

開会式が終わって、「さあ準備万端」運動会最初のプログラムは徒競走です。ワクワク・ドキドキの表情や、ちよっぴり不安そうな表情がスタートに並びます。第1走目は、男子30メートル。この30メートル、実行委員が準備の段階でラインを引いた時には、ゴールが遠く感じ、走り切れるかと心配をしましたが、そんな不安は無用でした。スタートの笛と同時に、パワーが炸裂。ゴールを目指して走り切る姿に、応援の声も大きくなり、順番を待つ選手の皆さんの気持ちも高まります。つづきまして女子30メートル走です。男子に負けず歓声を背に受け元気いっぱい走り切りました。そして3番目は、車椅子・幼児混合の15メートル走です。車椅子を押す職員が緊張気味のご様子。選手のみなさんは、名前をアナウンスされるとニコリ笑顔。手を高く挙げてアピール。その横で控えるは、幼児



の小さな選手たちです。お兄さん、お姉さんの走る様子をじっくり見届けて次は自分たちの出番だと真剣です。実は少し前から徒競走の練習をしてきたばかりの子どもたちは、かけっこを心待ちにしてきました。かっこいいポーズを決めてよーいドンでスタート。手を広げて待つている保育士に飛び込んでゴール。キラキラシールを胸に貼っていた大きな喜びの笑顔で溢れました。選手と会場が一体となって走り切った徒競走でした。

揺れるパンをめがけて!

マルカート 中西 洋子

午前の部、徒競走が終わりお腹の音が鳴り始めました。さあ、いよいよです! プリンにカレーパン・チョコロールパン・メロンパン・クッキーなどなど、いいにおいがしてきました。

スタート位置に立ち、どのパンにしようか、みんなの目がきらきらしています。お目当てのものがとれたでしょうか?

昨年までは、それぞれの事業所ごとに、順番で行っていたパン喰い競走でしたが、今年3レース目から数名ずつ出場し、いろいろな事業所のお友達とパン喰い競争を行うことができました。また、遊びに来て下さった方々にも参加していただける競技で、楽しいひとときとなりました。



盆踊り

支援センターわかぎ 花本 正人

去年はエキゾチック倶楽部さんの演奏でかなり盛り上がりましたが、今年は盆踊りに変更されました。盛り上がりという点ではどちらも同じくらいではないかと思われます。

わかぎの利用者さんにとっては慣れ親しんだ『浜北音頭』なので皆さんとても活き活きと楽しんで踊っていました。踊っている人達も踊りを見ている人達も共に笑顔が見られて良かったと思います。

わかぎの利用者さんの周りでは、他の施設の利用者さん達が真似て一緒に踊りを楽しまれていたので、各施設で踊りを練習されて来年も是非盆踊りを継続されることを願います。2曲目以降はとてもハイカラな曲を選んでしまったので、利用者さん達は戸惑っていた様に感じました。選曲ミスを反省しています。来年に期待をします。



玉入れ

三方原スクエア 松下 美穂



午後の競技は玉入れから始まりまし
た。得点競技ということもあり、各事業
所共に一段と熱が入った様子でした。今
回はトーナメント方式で行ったため、抽
選で決められた対戦チームと競い合い
ました。前年と同様、床に置いた2つの
箱とお互いの対戦チームの職員が籠を
背負い動き回る中へ玉を入れます。一発
勝負にかける意気込みが利用者と職員
にも感じられ「合戦」という言葉がふさ
わしいのではないかと感じられる程の盛
り上がりでした。各チーム予想を上回る
数の玉が入れられ、競技係りによる玉の
カウントにかなり時間がかかってしま
うほどでした。各チームが丸となつて競
いあった後はみんな笑顔で引き上げてい
き、とても満足そうな表情を浮かべてい
る方が多く見られました。午後の競技一
番目という事もあり、素晴らしい盛り上
がりを見せていただきました。

玉転がし

オリブの樹 大塚 篤史



玉入れ競技の興奮冷めやらない中に
行われた玉転がしリレー。何と、最後の
最後に感動の結末が待つておりました。
玉の大きさが違うようでしたが、各事業
所の利用者さんは必死に玉を転がして
ひとつでも順位を上げようと頑張つてい
ました。
いよいよアンカー。我がオリブの樹
は3位。このままの順位でも大健闘と思
つていましたが、アンカーの利用者さん
の最後まで諦めない姿勢が勝利の女神
を引き寄せたのか、ゴール手前3メート
ル地点にて3位から一気に首位へ順位を
上げ見事に1位。興奮と感動を見ている
人たちに与えてくれました。しかし順位
関係なく、ひとつのボールを通じて各事
業所の利用者さんや職員の気持ちが一
つになつた、そんな競技であつたよう
な気がしました。

男女混合リレー

小羊ダイケアホーム 平澤 保彦

男女混合リレーは、5施設から代表
者を出して競う施設対抗競技です。施
設対抗の競技である事、運動会の最終
競技である事で、出走者への期待も応援
の大きさも最高潮です。利用者はトラッ
ク半周・職員はトラック1週を走るの
で、選手は両側のスタートライン付近に
集まります。リラックスしている利用者
の表情とは対照的に、出走前に緊張して
いるのは職員の方です。

用意、スタート、選手達は一斉にス
タートしました。腕をぶんぶん振つて、
緊張の面持ちで疾走して行きます。

そんな中第3走者のAさんは、自分の
横を次々と走りぬかれても、大好きな
職員に先導されてトラックをニコニコし
ながら楽しそうに、自分のペースで歩い
て行きます。この情景を見て、これこそ
が障害の重い人も軽い人も職員もふれ
あい重視で一緒に楽しむ、小羊学園の運
動会の姿だと感じました。

レースは進み選手が次々とゴールす
る中、残るはダイケアホームとスクエア
の4位争いです。我が施設長の紅谷さん
は1つでも順位を上げようと前を追い
かけます。トラック1週のデッドヒート
は、少しの差で4位はスクエアとなりま
した。10分間の1つの競技に運動会参加
者全員がひとつになつて、興奮し燃え上
がつた男女混合リレーでした。

ふれあい運動会 実行委員に聞きました!

実行委員長 オリブの樹 大塚 篤史 さん

- Q. 今年のふれあい運動会で意識したことは?
- A. 「原点回帰」。運動会の本質を追求しました。
- Q. 運動会の開催中に感動したことは?
- A. 玉転がしリレーでオリブが逆転勝利した瞬間。
- Q. 利用者が楽しめるように心掛けたことは?
- A. 多くの利用者さんが参加出来るようにと意識して競技方法などを考えました。
- Q. 次年度への反省を聞かせてください。
- A. 昼休み後のアトラクションに工夫を凝らしたいです。



前列左から2番目が大塚委員長



10月25日に静岡銀行流通センター支店と榛原支店の行員の方々と利用者のご家族にお越しいただき、つばさ静岡の建物外周の草取りと花壇の手入れをしていただきました。当日は雲一つない秋晴れに恵まれ陽射しが強く、大粒の汗をかきながら活動してくださいました。皆様に大変感謝申し上げます。

小さな親切運動で銀行員の皆様大活躍
つばさ静岡

全面改築を終えた支援センターわかぎが10月26日に2年ぶりに秋祭りを開催いたしました。今年には新建物での初めての開催。こすもすホール（地域交流スペース）とカフェテリアを中心に、イベントや模擬店、フリーマーケットを行った他、日中活動スペースでは、織りや折り染めの体験工房も行われました。イベントではさをりファッションショーで始まり、「びわの実の会」の皆様によるフラダンスショーや土屋伸太郎さんのピアノコンサート、Grace Gospel Choirの皆様によるゴスペルコンサートが行われ、利用者の皆さんと楽しむことができました。



秋祭り盛大に行われました
支援センターわかぎ



三方原スクエアで地域の皆様との交流行事として、11月8日（土）に移転改築して6年目にして初めて秋祭りを開催しました。正面駐車場を会場にして、焼きそばや豚汁の他にも駄菓子コーナーや焼サンマなどの秋を感じる事ができる模擬店が並びました。またイベントでは、バルーンアート・みおつくし太鼓・聖隷クリストファー高校吹奏楽部の皆様が出演くださり、利用者や来場者を楽しませてくれました。総勢約250名の方が参加され、爽やかな秋の一日を堪能しました。

初めての秋祭り開催しました
三方原スクエア

先月の初旬の台風18号は猛烈な風雨のまま上陸し、静岡市清水区では床上浸水に見舞われる被害となった。浜松でも朝方に時間雨量60mmを超えた。改築したての支援センターわかぎでは建物には全く被害はなかったが、植栽帯の斜面の土が駐車場内に流出した。台風通過後、茶色に染まった駐車場の土砂をスコップで掻き出していると、近所のご婦人が「お手伝いしましょうか」と気にかけて下さった。スコップだけお借りして、作業そのものは申し訳なさでご遠慮いただいたが、そのようなお気持ち嬉しく感じた。寒さが身に沁みます。どうぞお身体ご自愛ください。(F)

編集後記

小羊学園を支える会

2014年度 寄付金報告

9月受付分	87,000円 (14件)
累計	2,966,258円 (132件)

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
 口座名義 社会福祉法人小羊学園

ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
 口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局 (鈴木)
 小羊学園本部 ☎ 053-584-3337